

教育への投資は未来への投資

国府小学校長 桐谷 一夫

最近、若い世代が全国や世界レベルで活躍するニュースが続いています。世界卓球選手権大会において、女子シングルスで平野美宇選手(17)が48年ぶりの銅メダル、伊藤美誠選手(16)がダブルスの銅メダルに輝きました。また、男子の張本智和選手(13)は、リオ五輪銅メダルの水谷隼選手を下してベスト8に進出しました。3人ともに両親が元卓球選手であり、2～3歳頃から徹底した指導を受けていること、国の予算で設立されたIOCエリートアカデミー等の育成システムの中で、さらに力量に磨きをかけてきた共通点があります。当然、本人の努力も並大抵ではなかったと思いますが、他にも同じような環境で育った子もいる中で、ここまで才能を開花させたのは、いわゆる天賦の才だと言ってもよいでしょう。そして、その育成システムは、当然のことですが学校教育(公教育)の範疇のものではありません。いわゆる特殊な英才教育です。まさに、東京オリンピックを見据えた国家戦略としての投資の成果でもあり、教育への投資は未来への投資であることを実証した一例ともなっているのです。

また将棋の世界では、史上最年少棋士・藤井聡太四段(14)が連勝記録を25に伸ばしました。彼も、天賦の才を備えていることは間違いありません。その一方で、5月20日には、将棋の電王戦第二局が行われ、羽生善治三冠を破って出場した佐藤天彦名人が、コンピューターソフトに2連敗を喫しました。最も権威のある名人でもソフトに一勝もできず大会を終えたのです。コンピューターテクノロジーの進化は急速に進んでいます。未来社会において、天才ではない普通の子どもたちは、その能力を補完するものとして、コンピューターと共存する社会で生きなければならないことは確実だと思われます。

先日岐阜市の小学校へ、学校教育におけるICT(情報通信技術)の導入に関わる視察に行ってきました。岐阜市では平成18年度から「教育立市」を掲げて教育環境の整備が進められ、電子黒板セット(50型デジタルテレビ・電子黒板ユニット・実物投影機・省スペーススモールPC・そして国語



電子黒板と黒板を併用する授業



タブレットを用いた授業

・書写・社会・算数・理科・音楽のデジタル教科書)が、全ての教室と特別教室に導入されています。そして、本年度は1校あたり児童用40台教師用6台、全市で4,100台のタブレットPCが配置されます。電子黒板に教科書を拡大して映したり、児童のノートをそのまま映して授業を進めたりすることは、すでにあたりまえです。さらに、教師がICT機器を用いて授業を進めるだけでなく、タブレットPCを児童が活用しながら話し合いを進める授業も参観してきました。残念ながら高山市には、まだそうしたシステムは導入されていません。ICT機器を本格的に導入するためには、セキュリティー上、教室で使用する教育用パソコンと、成績処理や職員室における文書作成に用いる業務用パソコンの回線を分離することが前提ですが、それさえ進んでいません。ICT環境の整備に限って言えば、15年以上の格差がついているのが現実です。既に一般企業では、タブレットで説明を行ったりプレゼンテーションソフトを用いて会議の提案をしたりすることは、あたりまえの社会です。学校教育は公教育ですから、こうした格差を埋めていくことも急務であると思うのです。